

# 科学教育研究レター



## 目次

■ <b>理事会だより</b> .....2	■ <b>若手活性化委員会だより</b> .....22
第 307 回理事会報告	第 48 回日本科学教育学会年会若手企画（報告）
第 308 回理事会報告	2024 年日本科学教育学会研究会(若手活性化委員会
第 309 回理事会報告	開催)予告
第 310 回理事会報告	若手研究者, 「初心」を語る
第 48 回定時代議員総会報告	■ <b>編集委員会だより</b> .....28
合同会議報告	2023 年度第 3 回編集理事会報告
■ <b>年会</b> .....13	2023 年度第 4 回編集理事会報告
第 48 回年会開催報告	2024 年度編集委員会報告
第 49 回年会 開催案内（第 1 次）	特集投稿募集のお知らせ（再掲）
■ <b>支部・研究会だより</b> .....15	特集投稿募集のお知らせ
2024 年度研究会開催のお知らせ	「科学教育研究」編集状況報告
■ <b>国際交流委員会だより</b> .....18	■ <b>広報委員会からのお知らせ</b> .....37
第 48 回日本科学教育学会年会 国際ランチョ	
ン・ミーティング開催報告	
2024 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（国際	
交流委員会開催）開催予告	
国際学会参加報告(74)	
国際学会開催情報	

日本科学教育学会第 307 回理事会報告

日時 2024 年 6 月 15 日(土) 14:00~17:30  
会場 株式会社 内田洋行 新川第 2 オフィス (東京都中央区新川 2-4-7)  
出席者 会長 隅田 学, 副会長 清水美憲, 竹中真希子  
理事 加藤久恵, 松原憲治, 松浦拓也, 加納 圭, 山口悦司, 三宅志穂, 辻 宏子, 雲財 寛,  
秋田美代, 稲田結美, 山下修一, 瀬戸崎典夫, 大谷 忠, 舟橋友香  
監事 猿田祐嗣, 稲垣成哲  
事務局長 益子典文  
幹事 塩澤友樹, 山本容子  
顧問 小川義和  
オブザーバー 谷塚光典, 早藤幸隆, 山本輝太郎

1. 議事要録(案)の承認

○第 306 回理事会議事録(案)を承認した。

2. 第 307 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

○事務局からの発議により, 24/3/31 までに入会を希望した 5 名を電子会議により審査した結果, 全員の  
入会及び会員種別の変更が承認された (2024 年 4 月 3 日).

○事務局からの発議により, 24/4/30 までに入会を希望した 9 名を電子会議により審査した結果, 全員の  
入会及び会員種別の変更が承認された (2024 年 5 月 7 日).

○事務局からの発議により, 24/5/31 までに入会を希望した 16 名を電子会議により審査した結果, 全員の  
入会及び会員種別の変更が承認された (2024 年 6 月 5 日).

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理 (刊行物送付を含む) や諸対応について報告があった。

2) 経理・会員

○住所不明者について報告があった。

3) 機関誌編集

○機関誌の編集状況及び特集号について報告があった。

○EBSCOhost データベース収録について報告があった。

4) 学会賞

○2024 年度学会賞候補の推薦状況について報告があった。

#### 5) 支部・研究会

- 2023 年度現在までの研究会開催について報告があった。
- 2023 年度第 6 回研究会（中国支部開催）の経費について報告があった。

#### 6) 調査研究・学术交流・男女共同参画ワーキング

- 第 28 回 教科「理科」関連学会協議会 CSERS シンポジウム(5/19 実施)の報告があった。
- 一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会第 22 期への入会について報告があった。

#### 7) 国際交流

- 第 48 回年会における国際ランチョン・ミーティング開催について報告があった。
- 2024 年度 JSSE 研究会（国際交流委員会開催 英語による研究会）について報告があった。
- 科学教育研究レターへの海外の学会参加報告の掲載について報告があった。

#### 8) 年会企画

- 第 48 回年会の準備状況について報告があった。
- 第 49 回年会の開催計画について報告があった。

#### 9) 若手活性化

- 第 48 回年会における若手活性化委員会開催企画について報告があった。
- 2024 年度若手活性化委員会研究会の開催計画について報告があった。

#### 10) 選挙管理委員会

- 代議員及び役員選挙の結果について報告があった。

#### 11) 会長

- 日本教育工学会学会創立 40 周年記念シンポジウムへの本学会からの派遣について報告があった。

### 4. 協議事項

#### 1) 庶務・事務局

- 第 48 回定時代議員総会議事次第について説明があり承認された。
- 学会通信（総会号）の修正依頼について説明があり承認された。

#### 2) 経理・会員

- 退会希望者 8 名の説明があり承認された。
  - ・現在会員数：1,394 名（正会員 1,200 名，学生会員 110 名，名誉会員 21 名，公共会員 2 名，賛助会員 3 名，シニア会員 58 名）（2024 年 6 月 3 日付）
  - <前回会員数> 1,396 名（正会員 1,194 名，学生会員 120 名，名誉会員 21 名，公共会員 2 名，賛助会員 3 名，シニア会員 56 名）（2024 年 3 月 1 日付）
- 2023 年度の決算状況について説明があり，第 308 回の理事会で協議する旨が確認された。

○2024年度の収支予算書（案）について説明があり，第308回の理事会で協議する旨が確認された。

### 3) 機関誌編集

○「科学教育研究」誌のオープンアクセスジャーナル化，及びそれに向けた法務相談について説明があり承認された。

### 4) 学会賞

○学会賞の候補者について下記の通り提案があり承認された（以下，敬称略）。

論文賞	荒谷航平
論文賞	久保田善彦，松峯笑子，舟生日出男，鈴木栄幸
科学教育実践賞	川越至桜，大島まり，次世代育成オフィス（Office for the Next Generation :ONG）
科学教育実践賞	千葉和義，貞光千春，吉村和也，大崎章弘，植竹紀子，里 浩彰，榎戸三智子
科学教育実践賞	向 平和，えひめサイエンスリーダースキルアッププログラム運営企画会議
功労賞	大黒孝文
功労賞	瀬沼花子
功労賞	小山正孝
功労賞	森本弘一
功労賞	荻原 彰
奨励賞	田中達也
奨励賞	田邊和彦
奨励賞	高橋あおい

### 5) 支部・研究会

○2024年度事業計画（研究会開催予定）について説明があり承認された。

○次期支部長について説明があり承認された。

### 6) 広報・学会 IT 化

○レター発行計画について説明があり承認された。

### 7) 若手活性化

○アソシエイト委員の創設に伴う若手活性化委員会規程の改訂の提案があり承認された。

### 8) 創立 50 周年企画準備ワーキング

○日本科学教育学会創立 50 周年記念事業企画・実行委員会規定の制定について提案があり承認された。

### 9) 会長

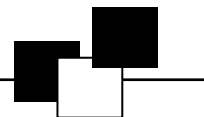
○役員選任規程第 13 条に基づき，会長から 3 名の会長推薦理事候補者が推薦され，提案通りに了承された。

### 5. 次回以降の理事会予定

・第 308 回:2024 年 8 月 3 日(土) 14:00～15:00 場所: ネット会議

- ・第 309 回:2024 年 9 月 13 日(金) 15:15 ~ 17:15 場所: 函館工業高等専門学校
- ・第 310 回:2024 年 9 月 15 日(日) 11:15 ~ 12:45 場所: 函館工業高等専門学校
- ・第 311 回:2024 年 11 月 16 日(土) 14:00 ~ 17:00 場所: ネット会議

## 日本科学教育学会第 308 回理事会報告



日 時 2024 年 8 月 3 日(土) 14 : 00~15:00  
会 場 ネット会議  
出席者 会長 隅田 学, 副会長 清水美憲,  
理事 加藤久恵, 松原憲治, 寺田光宏, 松浦拓也, 山口悦司, 辻 宏子, 稲田結美,  
山下修一, 大谷 忠, 舟橋友香, 秋田美代  
監事 猿田祐嗣, 稲垣成哲  
幹事 山本容子

### 1. 議事要録(案)の承認

○第 307 回理事会議事録(案)を承認した。

### 2. 報告事項

#### 1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理（刊行物送付を含む）や諸対応について報告があった。

#### 2) 経理・会員

○2023 年度の収支決算について説明があり承認された。

### 3. 協議事項

#### 1) 庶務・事務局

○第 48 回定時代議員総会議事次第について説明があり承認された。

#### 2) 経理・会員

○2024 年度の収支予算書（案）について説明があり承認された。年会に関わる収入と支出について、年会企画担当理事と確認することが共有された。

### 4. 次回以降の理事会予定

- ・第 309 回:2024 年 9 月 13 日(金) 15:15 ~ 17:15 場所: 函館工業高等専門学校
- ・第 310 回:2024 年 9 月 15 日(日) 11:15 ~ 12:45 場所: 函館工業高等専門学校
- ・第 311 回:2024 年 11 月 16 日(土) 14:00 ~ 17:00 場所: ネット会議

## 日本科学教育学会第 309 回理事会報告（案）

（議事要録承認前．要点のみ参考掲載）

日 時 2024 年 9 月 13 日(金) 15:15~17:15  
会 場 年会 S-2 会場 (B101)  
出席者 会長 隅田 学, 副会長 清水美憲, 竹中真希子  
理事 加藤久恵, 松原憲治, 寺田光宏, 松浦拓也, 加納 圭, 山口悦司, 三宅志穂,  
辻 宏子, 雲財 寛, 稲田結美, 山下修一, 土佐幸子, 瀬戸崎典夫, 大谷 忠,  
森田裕介, 大貫麻美, 舟橋友香  
監事 稲垣成哲  
幹事 山本容子, 塩澤友樹  
顧問 大島まり  
オブザーバー 谷塚光典, 黒田友貴

### 1. 議事要録(案)の承認

○第 308 回理事会議事録(案) を承認した。

### 2. 第 309 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

○事務局からの発議により, 24/6/30 までに入会を希望した 35 名を電子会議により審査した結果, 全員の入会及び会員種別の変更が承認された (2024 年 7 月 2 日).

○事務局からの発議により, 24/7/31 までに入会を希望した 7 名を電子会議により審査した結果, 全員の入会及び会員種別の変更が承認された (2024 年 8 月 2 日).

○事務局からの発議により, 24/8/31 までに入会を希望した 7 名と正会員からシニア会員への変更を希望した 1 名を電子会議により審査した結果, 全員の入会及び会員種別の変更が承認された (2024 年 9 月 3 日).

○会長からの発議により, 8 月 6 日付け提案のあった一般社団法人日本科学教育学会 2024 年度収支予算書の修正について, 電子会議により審議した結果, 全ての理事による承認があり, 2024 年度収支予算書の修正が承認された(2024 年 8 月 7 日).

### 3. 報告事項

#### 1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理 (刊行物送付を含む) や諸対応について報告があった。

#### 2) 経理・会員

○住所不明者について報告があった。

#### 3) 機関誌編集

○機関誌及び特集号の編集状況について報告があった。

○「科学教育研究」誌のオープンアクセスジャーナル化に向けた法務相談の結果報告と提案について報

告があった。

#### 4) 学会賞

○第48回年会（函館）における年会発表賞について投票依頼があった。

#### 5) 調査研究・学术交流・男女共同参画ワーキング

○男女共同参画学協会連絡会活動調査への回答について報告があった。

#### 6) 国際交流

○第48回年会における国際ランチョン・ミーティング開催の準備状況について報告があった。

○2024年度第1回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会開催 英語による研究会）の準備状況について報告があった。

#### 7) 年会企画

○第48回年会（函館）の発表件数、参加申込者数を含めた開催状況について報告があった。

#### 8) 若手活性化

○年会における若手活性化委員会企画の実施状況について報告があった。

○若手活性化委員会担当の研究会開催の準備状況について報告があった。

### 4. 協議事項

#### 1) 経理・会員

○除籍候補者30名と退会希望者63名の説明があり承認された。

現在会員数 1,401名（正会員 1,188名、学生会員 123名、名誉会員 21名、公共会員 2名、賛助会員 3名、シニア会員 64名）（2024年9月10日付）

<前回会員数> 1,394名（正会員 1,200名、学生会員 110名、名誉会員 21名、公共会員 2名、賛助会員 3名、シニア会員 58名）（2024年6月3日付）

#### 2) 機関誌編集

○編集委員に対する「科学教育研究」冊子の提供について説明があり、継続審議していくことが確認された。

### 5. 次回以降の理事会予定

- ・第310回:2024年9月15日(日) 11:15~12:45 場所: 函館工業高等専門学校
- ・第311回:2024年11月16日(土) 14:00~17:00 場所: ネット会議
- ・第312回:2025年3月15日(土) 14:00~17:00 場所: ネット会議
- ・第313回:2025年6月14日(土) 14:00~17:00 場所: 株式会社内田洋行 新川第2オフィス
- ・第314回:2025年 日時未定 場所: ネット会議
- ・第315回:2025年9月5日(金) 時間未定 場所: 広島大学東広島キャンパス

## 日本科学教育学会第310回理事会報告（案）

（議事要録承認前．要点のみ参考掲載）

日 時 2024年9月15日(日) 11:15~12:45  
会 場 年会 S-1 会場 (L107)  
出席者 会長 隅田 学, 副会長 竹中真希子, 久保田善彦, 西村圭一  
理事 松原憲治, 松浦拓也, 山口悦司, 土佐幸子, 大谷 忠, 大貫麻美, 舟橋友香,  
中村大輝, 竹内慎一, 川上 貴, 向 平和, 小松孝太郎, 川越至桜, 山本智一, 辻山洋介,  
山本容子, 舟生日出男  
監事 稲垣成哲, 土田 理  
幹事 鈴木宏昭, 黒田友貴  
顧問 小川義和  
陪席 清水美憲, 谷塚光典

### 1. 代表理事(会長)の選出

○隅田学理事が代表理事（会長）に選出された。

### 2. 理事等の会務分担

○理事の会務分担について原案通り，承認された。

○事務局長について益子典文会員に委嘱した。

○幹事（庶務）について黒田友貴会員に委嘱した。

○幹事（経理・会員）について鈴木宏昭会員に委嘱した。

○顧問について北原和夫会員，浪川幸彦会員，中山迅会員，室伏きみ子会員，大島まり会員，小川義和会員，渡辺美代子会員，猿田祐嗣会員に委嘱した。

○機関誌編集委員長，副委員長について青山和裕会員，木村優里会員（副），石橋一昂会員（副）に委嘱した。

○国際交流委員長，副委員長について小松孝太郎会員，越智拓也会員（副）に委嘱した。

○年会企画委員長，副委員長について服部裕一郎会員，福田博人会員（副），畠山久会員（副）に委嘱した。

○若手活性化委員長，副委員長について岡本紗知会員，長沼祥太郎会員（副）に委嘱した。

### 3. 報告事項

#### 1) 庶務・事務局

○メーリングリストについて報告があった。

○理事会資料の保管方法について報告があった。

○理事会手帳，事務委託契約内容について報告があった。

○各会務の年間スケジュールの作成について報告があった。

## 2) 国際交流

- 第 48 回年会における国際ランチョン・ミーティングについて報告があった。
- 2024 年度 JSSE 英語による研究会（国際交流委員会開催）の準備状況について報告があった。

## 3) 年会企画

- 9 月 15 日 11 時での第 48 回年会における発表数が 287 件、参加申込者が 440 名であった旨の報告があった。

## 4) 広報・学会 IT 化

- 『科学教育研究レター』および学会通信編集作業案について報告があった。

## 5) 若手活性化

- 年会における若手活性化委員会企画の実施状況について報告があった。
- 若手活性化委員会担当の研究会開催の準備状況について報告があった。
- 委員交代期における委員会委員選出の仕組みに関する問題意識について共有された。

## 4. 協議事項

### 1) 機関誌編集

- ・編集委員会編集委員・編集理事会委員・編集幹事の推薦について
- 資料に基づき説明があり、承認された。

### 2) 支部・研究会

- ・2024-2026 研究会企画委員会委員(候補)
- 資料に基づき説明があり、承認された。

### 3) 国際交流

- ・国際交流委員会構成員について
- 資料に基づき説明があり、承認された。

### 4) 年会企画

- ・年会企画委員会幹事及び委員の推薦について
- 資料に基づき説明があり、承認された。

### 5) 広報・学会 IT 化

- ・広報・学会 IT 化委員会幹事及び委員の推薦について
- 資料に基づき説明があり、承認された。

### 6) 若手活性化

- ・若手活性化委員会委員の推薦について
- 資料に基づき説明があり、承認された。

7) 日本科学教育学会創立 50 周年記念事業

- ・日本科学教育学会創立 50 周年記念事業企画・実行委員会について

○資料に基づき説明があり，委員長として清水美憲会員，副委員長として土佐幸子会員が承認された。

5. 次回以降の理事会予定

- ・第 311 回:2024 年 11 月 16 日(土) 14:00 ～ 17:00 場所: ネット会議
- ・第 312 回:2025 年 3 月 15 日(土) 14:00 ～ 17:00 場所: ネット会議
- ・第 313 回:2025 年 6 月 14 日(土) 14:00 ～ 17:00 場所: 株式会社内田洋行 新川第 2 オフィス
- ・第 314 回:2025 年 日時未定 場所: ネット会議
- ・第 315 回:2025 年 9 月 5 日(金) 時間未定 場所: 広島大学東広島キャンパス

## 一般社団法人日本科学教育学会第 48 回定時代議員総会 報告

日 時 : 2024 年 9 月 14 日 (土) 14:05～15:40

場 所 : ハイブリッドでの開催 対面 : 函館工業高等専門学校 S-1 会場 (L107)

次 第

(進行 : 加藤久恵 理事)

### 【一般社団法人日本科学教育学会代議員総会】

1. 開会の辞 (清水美憲 副会長)
2. 第 48 回年会開催校代表挨拶 (山田誠 函館工業高等専門学校副校長)
3. 第 48 回年会実行委員長挨拶 (下郡啓夫 実行委員長)
4. 会長挨拶 (隅田学 会長)
5. 議長選出  
定款第 36 条により，隅田学会長を議長に選出
6. 議事録署名人委任 (隅田学 会長)  
議事録署名人を，下郡啓夫 (函館工業高等専門学校)，馬場卓也 (広島大学) の両会員に委任することを承認した。
7. 審議 (議長 : 隅田学 会長)  
代議員総会出席者 30 名，委任状 10 通で代議員総会成立を確認 (松原憲治 理事)
  - 1) 第 1 号議案の提案 (隅田学 会長)  
2024-2025 年度役員候補者の説明と提案が行われ，第 1 号議案は代議員 40 名 (出席者 30 名，委任状 10 名) が賛成し，承認可決された。
  - 2) 第 2 号議案の提案 (松原憲治・松浦拓也 理事)

2023 年度事業報告書及び収支決算書の説明と提案が行われ、第 2 号議案は代議員 40 名（出席者 30 名，委任状 10 名）が賛成し，承認可決された。

3) 監査報告 (猿田祐嗣・稲垣成哲 監事)

監査の結果，一般社団法人日本科学教育学会のすべての会計処理が適正に行われていたことを確認した旨が報告された。

4) 第 3 号議案の提案 (松原憲治・松浦拓也 理事)

2024 年度事業計画書及び収支予算書（案）の説明と提案が行われ，第 3 号議案は代議員 40 名（出席者 30 名，委任状 10 名）が賛成し，承認可決された。

8. 議長解任

9. 新役員紹介

10. 表彰

1) 学会賞選考委員会での選考経過の報告 (清水美憲・三宅志穂 理事)

2) 表彰 (隅田学 会長)

功労賞

- ・荻原 彰 (京都橘大学)
- ・瀬沼花子 (元玉川大学)
- ・大黒孝文 (同志社女子大学)
- ・森本弘一 (奈良教育大学)
- ・小山正孝 (広島大学)

奨励賞

- ・高橋あおい (篠山チルドレンズミュージアム)
- ・田中達也 (神戸常盤大学)
- ・田邊和彦 (立教大学)

論文賞

- ・久保田善彦 (玉川大学)，松峯笑子 (長野県千曲市立更埴図書館)，舟生日出男 (創価大学)，鈴木栄幸 (茨城愛学)
- ・荒谷航平 (北海道教育大学)

科学教育実践賞

- ・川越至桜 (東京大学生産技術研究所)，大島まり (東京大学生産技術研究所)，次世代育成オフィス (Office for the Next Generation :ONG)
- ・千葉和義 (お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所)，貞光千春 (お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所)，吉村和也 (お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所)，大崎章弘 (お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所)，植竹紀子 (お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所)，里 浩彰 (お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所)，榎戸三智子 (お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所)
- ・向平和 (愛媛大学)，えひめサイエンスリーダースキルアッププログラム運営企画会議

年会発表賞

- ・岡田寛明，張峪霖，高駿業，磯崎哲夫 (広島大学)
- ・手塚千尋 (明治学院大学)

・鳥居深雪（関西国際大学）

11. 次年度第 49 回年会実行委員長挨拶

（馬場卓也 実行委員長）

12. 会長挨拶

（隅田学 会長）

13. 閉会の辞

（竹中真希子 副会長）

## 合同会議報告

日 時: 2024 年 9 月 13 日（金）17:30-19:30 函館工業高等専門学校 L107

2023 年度顧問・理事・代議員・支部長合同会議は、会長、副会長(2 名)、代議員(29 名)、顧問 (2 名)、支部長(6 名)、理事(18 名)、監事(1 名)、幹事 (2 名)、顧問 (2 名)、第 48 回年会実行委員長、年会企画委員長の実出席者数 45 名（ただし、役員役職の重複あり）が出席して開催された。最初に第 48 回年会の下郡年会実行委員長から歓迎の挨拶、会長から本学会の近況報告及び開会の挨拶、参加者から自己紹介があった。次に 2024-2025 年度役員候補者についての説明、2023 年度事業報告及び収支決算書についての説明、2024 年度事業計画及び収支予算（案）についての説明があった。次に参加者から正会員の状況や予算計画について質問があり、支部研究会の開催計画や事業計画について意見交換がなされた。次に 50 周年記念企画準備 WG の活動状況について説明があった。最後に第 49 回年会実行委員から次回の年会（広島大会）のアナウンスがなされた。

## 第 48 回年会開催報告

日本教育学会第 48 回年会は、2024 年 9 月 13 日（金）～15 日（日）の日程で、内閣府、文部科学省、北海道教育委員会、函館市教育委員会、日本宇宙生物科学会、日本身心一体科学会研究会および函館工業高等専門学校の後援を得て、函館工業高等専門学校にて開催された。48 回の年会開催の歴史の中で、高専での開催は初という記念の大会となった。そのような記念の大会を函館で開催するからこそ、お引き受けした当初から、北海道色をいかに出すかを考えてきた。その思いは、シンポジウムと懇親会で結実する。

今回のシンポジウムは、Society5.0 で求められる「サイエンス」人材とは～宇宙的視野からの人材育成法を北海道から発信する～というテーマであった。昨今の、情報化、グローバル化の進展により、社会がますます複雑かつ多文化的になってきている。一方、GX など、各国の施策を世界的視野で捉え、連携していくことが求められる時代となっている。このことは、数理・データサイエンスを拠り所に、確実/不確実な現在・未来との対応が求められる。宇宙規模で考えることは、そのような対応を今に縛られない新たな視野から検討できる可能性がある。北海道はそのような未来を考える材料の宝庫である。

懇親会では科学たのしみ隊の井上千加子先生をお招きし、科学ステージをしていただいた。函館の地は、長年、科学の楽しみを伝える科学館等がなかった。そのため、美馬のゆり先生（公立はこだて未来大学）が中心となり、2009 年にイギリスのエディンバラの国際科学フェスティバルを参考に、はこだて国際科学祭を企画した、子どもから成人までの多様な方々が一緒に楽しめる、地域ぐるみのサイエンスフェスティバルとして成熟するのに大きく寄与したのが、市民の有志のグループである科学たのしみ隊である。そのステージを今回ご参加いただいた全国の先生方と一緒に楽しめたことは、函館の科学コミュニケーションの歴史の一端に触れていただけたという意味で大きな意義があったと考えている。

そのような北海道色を出した本年会は、発表件数が一般研究 145 件、インタラクティブセッション 6 件、課題研究 25 件（発表数 127 件）と、多くの方々のご参加をいただくことができた。会場については、1 つの棟に一般/課題研究をすべて入れることを構想するも、1 部屋規模が小さく、変更の必要があった。その状況を逆にとり、インタラクティブセッション会場への導線の先に新たな会場を設置することで、コミュニケーションの場づくりをできるように心掛けた。その点では、学会員の方々との科学教育の対話の促進に寄与できたと考えている。

ただ、初の高専での開催ということで、いかに本学会と高専との距離感を縮めることができるかということも本年会のテーマであったと考えている。その点、高専内の研究者に声をかけ、高専らしい創造的・実践的技術者の研究テーマや、これから研究/社会実装のテーマになるかもしれないシーズを掲示する展示企画、「高専 100 人論文」から、高専と本学会の研究者等とのマッチングを図る機会を設けてもよかったと考えている。その点、今後の日本科学教育学会との関わりの中で検討できればと思っている。

今回、実行委員長をお引き受けしたが、私自身は日本科学教育学会で役員・委員・代議員などの経験があったわけではない。ある意味「無知」で臨んだ大会であった。ただ、その中でなんとか開催にこぎつけ、3 日間の運営を終えることができたのは、年会実行委員会や学生スタッフの頑張りがあったからである。それだけでなく、その前の準備期間で、綿密なスケジュール管理の中で、一挙手一投足を細かく指示・指導して下さった年会企画委員会のみなさまの支えがあったからに他ならない。この場を借りてお礼を申し上げたい。

日本科学教育学会第 48 回年会実行委員会 委員長 下郡 啓夫

## 第 49 回年会 開催案内（第 1 次）

1. 日程：2025 年 9 月 5 日（金）～7 日（日）（3 日間を予定）
2. 会場：広島大学教育学部  
（〒739-8524 東広島市鏡山一丁目 1 番 1 号）  
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/access>
3. 第 49 回年会実行委員会  
委員長 馬場卓也（広島大学大学院人間社会科学研究科）  
委員 磯崎哲夫（広島大学大学院）・清水欽也（広島大学大学院）・影山和也（広島大学大学院）・  
木下博義（広島大学大学院）・真野祐輔（広島大学大学院）・松浦拓也（広島大学大学院）・  
三好美織（広島大学大学院）・谷田親彦（広島大学大学院）
4. 年会企画委員会  
委員長 服部裕一郎（岡山大学）  
副委員長 福田博人（岡山理科大学），畠山 久（東京科学大学）  
幹事 石橋一昂（岡山大学）  
担当理事 大谷忠（東京学芸大学），山本智一（兵庫教育大学）  
委員 安部洋一郎（兵庫大学），新井しのぶ（中村学園大学），岡部 舞（大阪教育大学），  
小野寺かれん（京都光華女子大学），川崎弘作（岡山大学），木村優里（東京科学大学），  
小泉健輔（横浜国立大学），下郡啓夫（函館工業高等専門学校），平林真伊（山形大学），  
増田有紀（埼玉大学），谷田親彦（広島大学），山中真悟（福山市立大学），  
山本輝太郎（金沢星稜大学）

2024 年度研究会開催のお知らせ

今後の開催計画

開催支部/委員会	開催日	発表申し込み締切日	会場
国際交流委員会	2024 年 11 月 16 日 (土)	終了しました	オンライン
若手活性化委員会	2024 年 12 月 21 日 (土)	2024 年 11 月 11 日 (月)	大阪教育大学天王寺 キャンパス および オンライン (予定)
九州沖縄支部	2025 年 2 月 22 日 (土)	2024 年 1 月 13 日 (月)	中村学園大学
南関東支部	2025 年 3 月 9 日 (日)	2025 年 1 月 28 日 (日)	オンライン
東海支部	2025 年 5 月 18 日 (日)	調整中	静岡大学
北海道支部	2025 年 6 月 15 日 (日)	2025 年 5 月 6 日 (日)	オンライン

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので、ご確認ください。

※右の QR コードより、学会 Web ページ (研究会案内) にアクセスできます。

<https://jsse.jp/1-3>



2024 年度 第 1 回日本科学教育学会研究会 (国際交流委員会)

[テーマ] Science Education from Global Perspectives

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 2024 年 11 月 16 日 (土) 9:00~12:00

[会場] オンライン開催

[対象] 会員, 教員, 学生, 社会人

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。なお、オンライン開催 (試行) のため、参加をご希望の方は、2024 年 11 月 11 日 (月) までに、下記 URL より、あらかじめ参加申込をいただきますよう、お願いいたします。11 月 13 日 (水) 以降にオンライン開催の ZOOM URL を直接ご連絡いたします。

◎参加申込 URL : <https://forms.gle/hpQXqfU6UXnVPPzu9>

また、研究会当日の録音、録画をご遠慮ください。

[問い合わせ先] 国際交流委員会・委員長 土佐 幸子

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地 新潟大学教育学部

Tel/Fax : (025-262-7147)

E-mail : stosa(atmark)ed.niigata-u.ac.jp (土佐 幸子)

※アドレスの(atmark)の部分は@です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 国際交流委員会 委員長 土佐 幸子

## 2024年度 第2回日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）

[テーマ] 次世代の科学教育研究

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 2024年12月21日（土） 10:00～17:00（予定）

[会場] 対面開催（一部オンライン）

大阪教育大学天王寺キャンパス みらい教育共創館 4F

〒543-0054 大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88番

[対象] 会員，非会員

[参加] 発表の有無にかかわらず参加可能。参加費無料。

[申込み先] [https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSc11u1g3jx71inrRdAynNQBKxNeL9\\_UoQLAI7Db5vWlnMyMVA/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSc11u1g3jx71inrRdAynNQBKxNeL9_UoQLAI7Db5vWlnMyMVA/viewform?usp=sf_link)（参加のみの場合は対面/オンラインを問わず当日申込可）

[問い合わせ先] 若手活性化委員会・幹事 岡部 舞（大阪教育大学）

E-mail: [okabe-m90\[atmark\]cc.osaka-kyoiku.ac.jp](mailto:okabe-m90[atmark]cc.osaka-kyoiku.ac.jp)（[atmark]の部分は@です）

[発表方法] 発表は全てポスター発表の形式で実施

①当日の発表について

ポスター発表の形式（サイズはA0またはA1で縦表示）

②事前動画の提出について

発表動画の提出が必要です。動画の長さなどの詳細は決まり次第お知らせします。

[発表申込・論文提出締切]

- ・ 発表は、単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件
    - 発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱う
  - ・ 原稿執筆要項：<https://jsse.jp/1-3/115-2> 〉
  - ・ 研究報告テンプレート：<https://jsse.jp/1-3/125-2> 〉
  - ・ 発表申込締切：2024年11月11日（月）（開催40日前）
  - ・ 原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切：2024年12月1日（日）（開催20日前）  
締切日は日曜日となりますため、原稿投稿料は12月2日（月）午前に振込先口座に入金が完了するよう、手続きは余裕を持ってお願いいたします。
  - ・ 投稿先：<https://jsse-kenkyukai-form.jp/> 〉
    - 研究会情報のプルダウンメニューで「若手活性化委員会」を選ぶ
    - 投稿完了メールが<[info\[atmark\]jsse-kenkyukai-form.jp](mailto:info[atmark]jsse-kenkyukai-form.jp)>より自動送信されます。メールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。
- 注意：原稿提出が指定の期日に遅れますと、投稿できなくなり、自動的に取り消しとなります。  
また、原稿投稿料が指定の期日に遅れますと、発表できません。

[企画] 決まり次第，HP等を更新し，お知らせします。

[情報交換会] 研究会の当日（21日夜）に情報交換会を予定しております。詳細は参加申込者に連絡いたします。

[表彰] 優秀な研究発表に対して「ベストプレゼンテーション賞」を授与します。

詳細は <https://jsse.jp/regulation/42-2> をご確認ください。

[運営ボランティア]

運営にご協力くださるボランティアを、若干名募集します。ご協力いただいた方には、参加証明書を発行します。

募集資格：開催時点で 39 歳以下の会員，学生会員

(資格を満たさない場合は、別途ご相談ください。)

[詳細] 上記についての詳細は、本 HP 等で随時更新してお知らせします

日本科学教育学会 若手活性化委員会委員長 岡本紗知 (大阪大学)

## 第 48 回日本科学教育学会年会 国際ランチョン・ミーティング 開催報告

日本科学教育学会第 48 回年会において、2 日目の 9 月 14 日（土）12:50～13:50 に国際ランチョン・ミーティングを対面形式で開催しました。委員も含め、事前登録 24 名、当日参加 12 名の計 36 名の方にご参加いただき、大変盛況でした。

今回は神戸大学のラッシラ エルッキ タピオ先生に「英語で研究発信してみよう!」というテーマでお話いただき(録画)、その後、各グループで英語による研究発信の難しさや注意点についてディスカッションが行われました。グループディスカッションでは、参加者それぞれの素朴な質問や体験談の共有が活発になされ、充実した会となりました。

また、国際交流委員会が 11 月 16 日（土）に開催する英語による研究会（2024 年度第 1 回研究会）の案内も行われました。英語での研究会は 4 回目の開催となります。会員の皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは、次ページの開催案内をご参照ください。

国際交流委員会では毎年、年会期間中の昼食時間帯にランチョン・ミーティングを開催し、会員同士の交流を通して、国際的な研究活動のきっかけ作りを行っています。次年度の第 49 回年会でも開催予定です。企画についてご要望などありましたら、国際交流委員会にお寄せください。

最後になりましたが、今回のランチョン・ミーティングの開催にあたりご協力頂いた年会実行委員会、年会企画委員会、広報委員会の皆様、参加者の皆様に感謝申し上げます。



### Mingling and networking is not easy... but well worth it

- Everyone disappears when the session ends and other downsides of the ZOOM-era
- Your presentation is just an excuse to go places: best things in conferences happen elsewhere
- Take opportunities for international mobility / go for research visits with partner universities / invite people over to your university (hosting is educational)



担当：土佐幸子（新潟大学）

## 2024 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会開催）

### 開催予告

2023 年度に引き続き、2024 年度第 1 回研究会（国際交流委員会開催 英語による研究会）を 2024 年 11 月 16 日（土）にオンライン（Zoom 利用）にて開催します。この研究会は、科学教育研究について、会員の皆様が英語で発表する場を設け、国際的な発信を促すとともに国際交流を活発化することを目的として、論文掲載、一般発表、および講演をすべて英語で行います。

これまで国際学会等に参加したことがない方でも安心してご参加いただけるように、一般発表では、トラブル時など日本語でサポートできるように準備をしていますので、多数の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

- 日時：2024 年 11 月 16 日（土）9:00-12:00（予定）
- 開催方法：Zoom によるオンライン開催
- 研究会のプログラム概要

#### <海外の研究者によるゲストトーク>

下記 2 名の研究者をお迎えし、ゲストトークを行ないます。

- ・ Dr. Arif Widiyatmoko (State University of Semarang, インドネシア)

Title: Utilization of ICT within the context of science education

- ・ Professor Rully Charitas Indra Prahmana (Ahmad Dahlan University, インドネシア)

Title: When Culture Meets Mathematics: Promoting Indonesian Traditional Games as a Context in Mathematics Learning

#### <英語による一般発表>

英語による研究発表を行います。初めての方も大歓迎です。

なお、研究会終了後に情報交換会の開催も予定しております。

#### ○発表・参加申し込みについて

参加を希望される方は、学会 Web サイトの本研究会ページ（「日本科学教育学会 2024 年度第 1 回研究会（国際交流委員会開催）」）に記載しております「申し込み先 URL」より申し込みをお願いいたします。

研究会 URL および申し込み先 URL は下記の通りです。

参加申し込み締切りは 2024 年 11 月 11 日（月）です。

- ・ 研究会 URL：<https://jsse.jp/workgroup/2024-01>
- ・ 参加申し込み先 URL：<https://forms.gle/hpQXqfU6UXnVPPzu9>

## 国際学会参加報告(74)

### ICME-15 (International Congress on Mathematical Education)

ICME-15 (International Congress on Mathematical Education) が、2024年7月7日から14日まで、オーストラリアのシドニーで開催されました。ICMEは4年ごとに開催され、世界中の数学教育の専門家や研究者が集まって数学教育について議論し、知識を共有する貴重な機会です。ICME-15では、54の分科会 (Topic Study Group) が設定され、各グループが異なるテーマに基づいて数学教育に関する専門的な議論を行いました。また、6つの全体講演 (Plenary Lectures) と62名の招待講演 (Invited Lectures) が行われました。

私は特に TSG 5.11 「数学教育における国際協力 (International cooperation in mathematics education)」と TSG 5.5 「数学教育の社会的・政治的側面 (Social and political dimensions of mathematics education)」に参加しました。TSG 5.11 では、国際協力を通じた数学教育の発展について議論されました。特に、国際的なパートナーシップの形成や、多様な文化背景を持つ教育者がどのように協力して課題を解決しているかについてのケーススタディが紹介され、他国との協力を通じたリソースの共有や、共同研究の可能性に関する知見の提示がありました。TSG 5.5 では、数学教育が社会的・政治的な文脈にどのように影響を受け、またどのように貢献できるかという論点が挙げられました。特に教育政策や不平等、社会的公正などのテーマが取り上げられ、数学教育が社会変革に果たす役割について活発に議論されました。

全体講演の1つは、南アフリカのウィットウォーターズランド大学の名誉教授ジル・アドラー氏により行われました。彼女は、数学教育において、グローバル・サウスとグローバル・ノースが、研究や教育を双方向に交流させていく重要性を強調しました。特に、多言語環境の教室に焦点を当て、異なる経済・文化的背景を持つ地域間の協力が数学教育の進展に貢献すると述べました。



次回の ICME-16 は、2028年7月2日～9日にチェコ共和国のプラハで開催されることが発表されました。

(日下智志・鳴門教育大学)

2025 年

**ASTE 2025 Annual Conference**

開催地：Westin Long Beach, CA, USA

期間：2025 年 1 月 13 日-1 月 19 日

<https://theaste.org/meetings/2025-international-conference/>

**The 14th Congress of the European Society for Research in Mathematics Education (CERME14)**

開催地：Bozen-Bolzano, Italy

期間：2025 年 2 月 4 日-2 月 8 日

発表エントリ一締切り：2024 年 9 月 15 日

<https://www.cerme14.it>

**NARST 2025 Annual International Conference**

開催地：Gaylord National Resort & Convention Center, MD, USA

期間：2025 年 3 月 23 日-3 月 26 日

<https://narst.org/conferences/2025-annual-conference>

**2025 Conference ASERA (Australian Science Education Research Association)**

開催地：Melbourne, Australia

期間：2025 年 7 月 1 日-7 月 4 日

<https://www.asera.org.au/2025-conference/>

**The 9th ICMI-East Asia Regional Conference on Mathematics Education (EARCOME9)**

開催地：Seoul, Korea

期間：2025 年 7 月 18 日-7 月 22 日

<https://www.earcome9.org/>

**48th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education (PME48)**

開催地：Santiago, Chile

期間：2025 年 7 月 28 日-8 月 2 日

<https://eventos.cmm.uchile.cl/pme48/>

**ESERA (European Science Education Research Association) Conference 2025**

開催地：Copenhagen, Denmark

期間：2025 年 8 月 25 日-8 月 29 日

<https://www.esera.org/conference-2025/>

### 第 48 回 日本科学教育学会年会 若手企画（報告）

第 48 回年会では、若手活性化委員会によるチュートリアルとして、「論文執筆の五稜星（みちしるべ）：2つの視点で見る執筆の極意」を実施しました。

本企画は、論文執筆における「指導する側の視点」「指導を受ける側の視点」といった異なる視点から見た紆余曲折の事例を共有することで、論文執筆の中で直面する課題やその乗り越え方、また指導教員から受けた指導が現在の論文執筆や学生指導にどうつながっているかなど、参加者の今後の研究へのヒントにしてもらいたいという意図で実施しました。参加者は 57 名で、小グループに分かれた意見交流が行われた際には、「様々なバックグラウンドを持つ人と交流できるよい機会となりました。」「初めてお話しの方と交流ができて嬉しかったです。」といった感想をいただきました。また、「話し合いはテーマやお題がある方がおもしろいかもしれないと思いました。」といった意見もいただきました。お寄せいただいたご意見は、今後の研究会運営向上のために役立てさせていただきます。

ご登壇いただいた先生方、またご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

#### <登壇者一覧>



木村優里先生（東京科学大学） 服部裕一郎先生（岡山大学） 久保田善彦先生（玉川大学）

#### <当日の会場の様子>



#### ・運営ボランティア

本年会企画は、ボランティアの皆様のご協力があったからこそ、円滑に開催することができました。運営一同、改めて皆様のご協力に心から感謝しております。

#### 【ボランティアに参加してくださった方】

工藤壮一郎様、樋口真之輔様、牧澤遼様、松山友香様、村津啓太様

<2022-2024 年度 若手活性化委員会委員長 山本輝太郎 挨拶>

今回企画にご参加いただいたみなさま、本当にありがとうございました。率直に活気のある、意義ある空間になっていたのではないかと感じました。JSSE若手活性化委員会では発足以降、会員の活性化に資する企画を考えてきました。今後もみなさまからのご意見や新たなアイデアを募集しております。また、みなさまが他のコミュニティに出向かれた折には、ぜひ JSSE 若手活性化企画等にお誘いいただくと幸いです。

最後に、2022年から2年間委員長を務めさせていただきましたが、拙い運営にも関わらず、みなさまにご協力いただき深く感謝しております。学会に何を求めるかは人それぞれかと思いますが、個人的には「学会に行くのが楽しい」となれるようなコミュニティは、それだけで非常に意義があると思っています。JSSE若手活性化はそういう性格をもったコミュニティなので、これを読んだ学生会員・非会員のみなさまも、敷居の高さを感じずにコミットいただくと幸いです。

## 2024 年 日本科学教育学会研究会(若手活性化委員会開催) 予告

若手活性化委員会が担当する研究会は、2024年12月21日(土)に大阪教育大学天王寺キャンパスにて開催します。

[テーマ] 次世代の科学教育研究

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 2024年12月21日(土) 10:00-17:00(予定), 9:30-10:00 受付

[会場] 対面開催(一部オンライン)

大阪教育大学天王寺キャンパス みらい教育共創館

〒543-0054 大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88番

[対象] 会員, 非会員

[参加] 発表の有無にかかわらず参加可能, 参加費無料

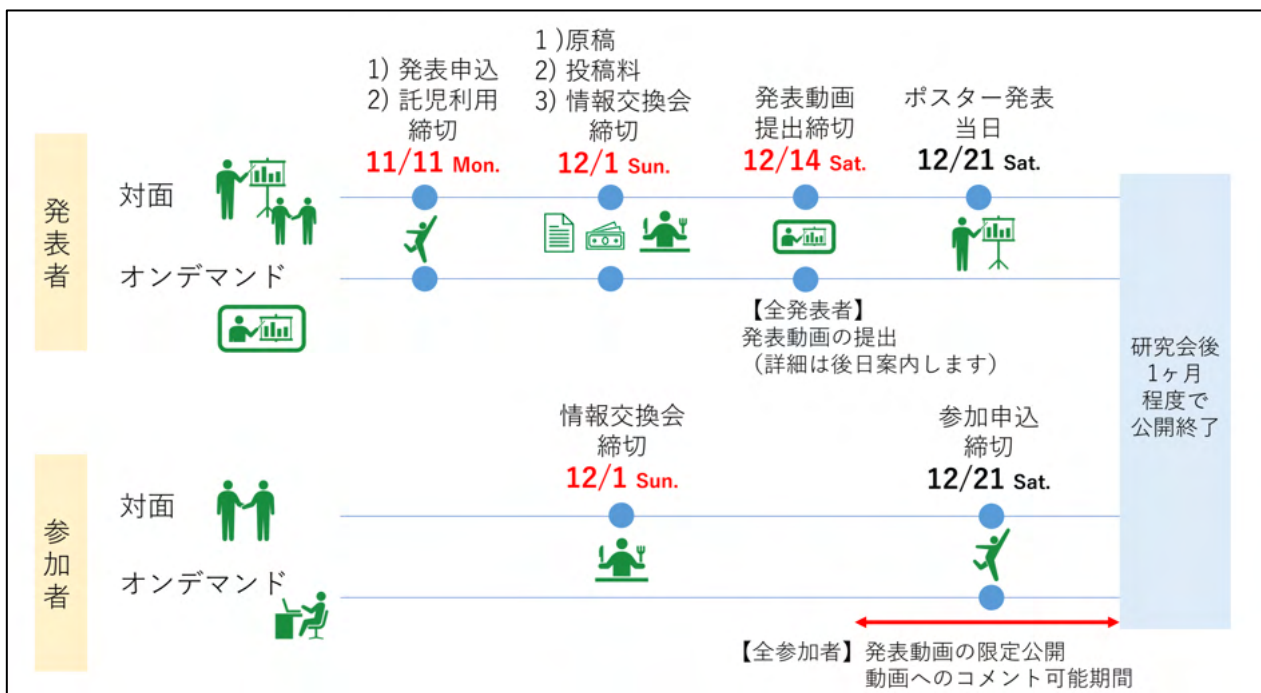
### <発表案内>

- ・発表はすべてポスター発表形式で行います。
- ・発表申し込み時に、「対面発表」「オンデマンド発表」のどちらかを選択することができ、**いずれの場合でも、事前に発表動画を提出**していただきます(詳細は学会HP, 申込者へのメールなどで別途お知らせします)。
- ・発表動画の提出後、研究会参加者に向けて発表動画の公開を行います。当該動画の公開後、参加者からのコメントに対するオンライン上でのディスカッションが可能です。
- ・オンデマンド発表の場合、発表動画の公開、発表予稿の提出をもって本研究会での発表とみなします。なお、ポスター発表はできませんが、オンデマンド発表へ申し込まれた方も、当日会場に来て研究会にご参加いただくことは可能です。

## <発表申込/締切など>

発表を希望される方や研究会に参加される方は、学会 Web サイトの本研究会ページ（「2024 年度第 2 回日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）」）に記載されている発表・参加申込み URL よりお申込をお願いいたします。研究会 URL は下記の通りです。多くの皆様の発表申込をお待ちしております。

- ・研究会 URL : <https://jsse.jp/workgroup/2024-02>
- ・発表/参加申込 URL : <https://forms.gle/zRtuMg8BCTFXMG2XA>
- ・発表申込締切は、2024 年 11 月 11 日（月）です。
- ・原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は、2024 年 12 月 1 日（日）です。



## <託児サービスの実施>

本研究会では、託児サービスを実施する予定です。利用を希望される方は、参加申込 URL の選択項目にてお知らせください。託児サービスの利用料金は無料です。詳細は、利用希望者に別途お知らせ致します。

託児サービスの利用の有無に関わらず、本研究会は、お子様と一緒にのご参加も歓迎致します。また、ご家庭の事情等で参加が難しくなった場合は、ご遠慮なくご相談ください。

## <若手活性化委員会による論文執筆支援>

これまでに若手活性化委員会では、論文執筆支援を目的とした様々な企画を実施してきました（e.g. 2018 年度：論文執筆ワークショップ；2019 年度：査読への対応）。また若手研究者の論文支援に繋げるために、サブミッションアドバイザーボード（SAB）など独自の取り組みも行なっています。これらの取り組みは、前者の場合は参加者同士の交流も可能にするという点において、また後者の場合は個別の研究へのアドバイスという点において優れています。しかしながら、いずれもその効果が一過性のもので

ある可能性は否めません。

そこで、若手活性化委員会では、論文執筆を支援するために、これまでの試みを発展させ、次の2つの新たな試みとして実施することとしました。

#### (1) 論文執筆 Tips 動画シリーズ

論文執筆をサポートするための動画シリーズを作成・公開し、経験者が論文執筆のための有益なアドバイスを提供することで、学会誌等の採択率を高めることを目指します。動画という形式をとることから、関心のある人がいつでもアクセスできる点、また継続的に活用が可能な点において優れていると考えられます。2024年10月以降、論文執筆の経験が豊富な研究者らに協力を依頼し、2025年度末までに20動画程度の作成を目指します。現時点では、試験的に作成した下記の動画4本を公開しています。

1. <https://youtu.be/7tj8NfRp628> (文章の書き方：作成・岡本)
2. <https://youtu.be/owCZuTNdZcc> (先行研究の調べ方：作成・雲財)
3. <https://youtu.be/UI7QcHY9gC0> (本の読みかた-説明編：作成・長沼)
4. <https://youtu.be/ngcxkdCpAbM> (本の読みかた-デモ編：作成・長沼)

#### (2) 論文執筆対面サポート

本研究会は学会機関誌『科学教育研究』の特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究」と連携しています。また研究会の翌日には、論文投稿経験の浅い人たちに向けて、より集中的な対面による論文執筆支援を実施します。対象は参加希望者10名程度とし、ゼミ形式で実施する予定です。詳細は、学会HPでご確認ください。参加希望者は、上記の研究会発表/参加申込URLよりお申し込みください。(日時：12月22日(日)午前中；場所：大阪教育大学天王寺キャンパス；申込締切：11月11日)

#### <その他>

企画内容は未定ですが、研究会では若手活性化委員会による企画を開催する予定です。また、研究会の当日(21日夜)に情報交換会を予定しております。

研究会に関わる情報は学会HPのほか、若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで随時公開していきます。どうぞご期待ください。

Facebook ページやメーリングリストの登録は、随時、受け付けています。ぜひご登録ください。

○若手活性化委員会 Facebook

<https://www.facebook.com/jssewakate/>

○JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

<https://goo.gl/tClQb4>

(大阪教育大学：岡部舞)

## 若手研究者,「初心」を語る

第6回目となる「若手研究者, 初心を語る」では, 「初めての年会参加」をテーマに, 現職の学校教員である2名の先生にご寄稿いただきました。9月に函館の地で開催された年会では, 約440名の参加があったとのこと。2/440の語りではあるけれど, 初めての年会参加にまつわる語りには, 教壇に立ち日々子どもと対峙しているゆえに宿る研究の力強さとともに, 学会という場の根源的な意味を私たちが見つめ直すきっかけが含まれているように感じます。

### 新たな挑戦と成長の機会

兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科 研究生 山川 結衣

私は沖縄県の中学校教員として勤務し, 今年で6年目を迎えます。このたび, 4月から兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科で研究生として学ぶこととなりました。そして, 初めて日本科学教育学会第48回年会函館大会で発表を行う機会を得ました。発表では, 沖縄(琉球)の特性による理科の指導上の課題解決に向けた「文化に関連する教育」というタイトルで, 琉球の先住民の知恵であるシークワサーを題材とした授業を提案しました。

シークワサーは, 琉球の歌謡集『おもろさうし』にも歌われているほど, 古くから琉球の人々に親しまれている植物です。実際, 私の祖父母の自宅にも生えており, 幼い頃からその香りを楽しんだり, 「うり! かめー! (ほら, 食べなさい)」と祖父に勧められて酸っぱい実を食べたりしていました。シークワサーは, 芭蕉布の洗濯や洗髪, さらに刺身醤油に加えられるなど, 人々の生活に深く根付いています。そのため, CRE理論を導入し, シークワサーを題材とした「文化に関連する教育」を中学校理科で実施することによって, 理科の学習効果が高まると考えています。

実際の発表では, 2回のベルが鳴るまで緊張のあまりほとんど記憶がありませんでしたが, その後の質疑応答では, 「沖縄では科学と技術とエンジニアリングはどう捉えているのか」, 「おもろさうしなどあらゆる教科に付随して展開可能だが, 学校教育で取り組む際, どのように取り組んでいくと考えているか」, 「一元論と二元論的な認識を子どもたちはどのように学習すればよいのか」, 「日本的な自然観に基づいたシークワサー等の学びをどうするか」等, 多くの先生方から質問をいただき, 私が一人の研究者として見ていただけていることを実感しました。プロフェッショナルとしての責任を強く感じる一方で, 互いの研究を尊重し合う温かさも感じることができました。

発表以外にも, 今回2つの企画に参加しました。初日の夜には若手活性化委員会のスタートパーティーがあり, 研究やキャリアについてざっくばらんに話し合うことができました。2日目の夜には, 若手からベテランの先生までが参加する懇親会にも参加し, 研究室の先輩が知人を紹介してくださったおかげで, 貴重な出会いがありました。これらの企画を通じて, 日本科学教育学会における人とのつながりを実感しました。今後は, あまりおじけずに自分から積極的に話しかけていきたいと思えます。

現在, この原稿を書いている私の目の前には, 授業に一生懸命取り組んでいる中学生がいます。この

生徒たち、ひいては未来の子どもたちのために、日本科学教育学会が過去から現在にかけて行ってきた研究の一部に参加できたことを嬉しく思います。これからも沖縄（琉球）文化に関連する教育教材の開発に精進していきたいと考えています。

## 科学教育学会初参加記

神戸大学附属中等教育学校 教諭 樋口真之輔

正直なところ、本学会に初参加することに決めた最大の理由は、「日程が合うから」でした。そのような軽い理由であったのにも関わらず、先生方に温かく迎え入れていただいたうえ、今後の研究を進めるための指針を得ることができ、とても有意義な本学会初参加となりました。お礼申し上げます。執筆の機会をいただいたので、自己紹介を兼ねた参加記を拵えました。

私自身の学問的背景は動物にまつわる形態学と発生学です。進化生物学の研究で学位を得、いまも細々とではありますが、海産無脊椎動物を用いた研究を継続しています。他方で、私の本務は神戸大学附属中等教育学校の教員として、生徒とともにサイエンスを勉強することです。充実の日々を過ごしていますが、現任校での勤務は4年目となり、そろそろ「教育」と名の付く学会で勉強したいと考え、なおかつ考査期間中で出席しやすかったこともあり参加を決断しました。さらに、「せっかく学会に参加するのならば、そこで発表をしなければ主体性が半減する」と指導する生徒によく言っている手前、なんとか発表内容をひねり出したというのが実情です。

日々授業をしていると、教科書には「間違っただけ」は書いていないのに、多くの生徒が同じように誤解しがちなポイントがあります。それ自体は、前々から気づいていたし、頷かれる方も多いと思います。今回私は、とりわけ生物の「分類」や「進化」にまつわる事柄でそれが顕著に見られることに着目して、探究した内容を発表しました。まだまだ科学教育学の方法論が十分に身につけていないことは自覚しているのですが、拙い話を聞いて親身になって議論いただいたおかげさまで、研究の向かうべき道が具体的に定まってきました。今後研究を進展させ、本学会でご報告するのを目標に仕事に励みたいで

す。ところで蛇足ですが、中学・高校の6年間に相当する教育を一貫して施す「中等教育学校」という校種が一条校に仲間入りしてからもう四半世紀以上経ちます。しかし現任校は、世間からはもとより、学会においても中学校とよく間違われます。あるいは、2009年に創立される前は附属中学校だった影響もあるのかもしれませんが。もしかすると、その頃までに附属中学校において蓄積された実践教育の実績や印象を、新生の附属中等教育学校が更新できていないためではないかとも思い至り、その構成員の一人として反省するところです。みなさまに中等教育学校の存在をさらに認知いただけるよう仕事に励みますので、現任校の神戸大学附属中等教育学校ともども、今後ともよろしく願いいたします。

### 2023 年度第 3 回編集理事会報告

2023 年度第 3 回編集理事会は、2024 年 6 月 3 日（月）に、オンライン会議システム Zoom を利用した遠隔会議で開催された。まず、次期編集委員の推薦案が決定された。続いて、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの適用によるオープンアクセスジャーナル化の検討が協議された。さらに、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2025 年 12 月発刊予定）」（第 49 巻，第 4 号）を企画することが決定された。その後、特集「ウィズコロナ社会に求められる新しい科学教育の挑戦（2024 年 6 月発刊予定）」（第 48 巻，第 2 号）の編集状況、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2024 年 12 月発刊予定）」（第 48 巻，第 4 号）の編集状況、特集「データサイエンスと科学教育（2025 年 6 月発刊予定）」（第 49 巻，第 2 号）の準備状況、「科学教育研究」全体の編集状況、第 47 巻第 2 号からの EBSCOhost データベース収録状況などが報告された。併せて、継続協議事項についての確認が行われた。

### 2023 年度第 4 回編集理事会報告

2023 年度第 4 回編集理事会は、2024 年 9 月 2 日（月）に、オンライン会議システム Zoom を利用した遠隔会議で開催された。まず、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2025 年 12 月発刊予定）」（第 49 巻，第 4 号）の趣意文が決定された。続いて、第 48 巻第 3 号以降における J-STAGE 掲載記事の PDF 作成指針の改定に伴うセキュリティ設定の変更が決定された。その後、オープンアクセスジャーナル化の検討状況、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2024 年 12 月発刊予定）」（第 48 巻，第 4 号）の編集状況、特集「データサイエンスと科学教育（2025 年 6 月発刊予定）」（第 49 巻，第 2 号）の準備状況、「科学教育研究」全体の編集状況、S1M（ScholarOne Manuscripts）利用ジャーナルに関する投稿・審査状況データおよびアンケート回答などが報告された。併せて、継続協議事項、今後の編集理事会・編集委員会の予定についての確認などが行われた。

次回の編集理事会は、2024 年度からの新しい編集理事会の体制で、2024 年 11 月に、遠隔会議での開催が予定されている。

### 2024 年度編集委員会報告

2024 年度第 1 回編集委員会は、今年は 2 年に 1 度の委員の半数が入れ代わる年であるため、旧委員と新委員が出席し、年会期間中の 9 月 14 日（土）に、年会会場の函館工業高等専門学校において対面で開催された。まず、出席者の自己紹介の後、2023 年度および 2024 年度の編集委員会の構成、編集委員会における編集理事会の位置付け、「科学教育研究」の編集の進め方、「科学教育研究」の編集状況、EBSCOhost データベース収録状況、オープンアクセスジャーナル化の検討状況、今後の編集委員会および編集理事会の予定などが報告された。その後、編集に関わる留意点などに関する協議が行われた。

## 特集投稿募集のお知らせ（再掲）

編集委員会では、下記の主旨で、「科学教育研究」第49巻第2号での特集を企画します。研究論文、総説、展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

なお、投稿規定により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要がありますので、その点ご注意ください。

編集委員長 青山和裕  
特集編集部会長 川上 貴

### 記

特集名：データサイエンスと科学教育

AI技術の発達と「ビッグデータ」の登場に伴い、現代社会において、データサイエンスの役割や意義が増している。実際、GPS、画像認識、自動運転、レコメンドサービス、SNS、感染症予測、環境予測、生成AIなど、データサイエンスの利活用が、我々の生活の中にも益々浸透してきている。

他方で、こうしたデータサイエンスの潮流は、科学教育諸分野にも変革をもたらしつつある。例えば、日本学術会議の「新学習指導要領下での算数・数学教育の円滑な実施に向けた緊急提言：統計教育の実効性の向上に焦点を当てて」や「大学における数理・データサイエンス・AI教育の中での統計科学の教育について」にみられるように、科学教育諸分野において、数理・データサイエンス・AIに関する素養やAI実装社会への対応力を備えた市民・人材の育成が求められてきている。さらに、内閣府の「デジタル社会の実現に向けた重点計画」で示されたように、教育データを利活用したデータ駆動型の教育も求められている。

データサイエンスの科学教育への関わりは、研究内容から研究方法に至るまで多岐にわたると考えられる。データサイエンスに関わると思われるキーワードを挙げると、統計、確率、数学、モデル・モデリング、教育データ、データの可視化・分析、コーディング、シミュレーション、プログラミング、アルゴリズム、コンピューショナルシンキング、AI、機械学習、データ倫理教育、STEM/STEAM教育、高等教育、IoTなどである。しかしながら、データサイエンスが、実際に科学教育の研究や実践等にどの程度貢献してくるのかは、まだ不明な点が多い。

このような背景を踏まえ、本特集は、「データサイエンスと科学教育」をテーマとし、幅広く投稿を求め、AI実装社会に対応する科学教育の構築への足掛かりとする。本特集では、データサイエンスを幅広く捉えて、データサイエンスと科学教育に関する先端的な研究や実践などに限定することなく、データサイエンスの基礎となるような従来から取り組まれている科学教育に関する研究や実践等も対象としている。また、データサイエンスと科学教育に関する理論的または実証的な独創性のある研究成果の投稿はもちろんのこと、データサイエンスと科学教育についての新しい思潮、政策、研究動向の解説や展望に関する投稿、データサイエンスと科学教育に関して資料的価値のある投稿、データサイエンスと科学教育に対する意見・提言の投稿も大いに歓迎する。募集する研究領域の投稿論文は、以下の通りである。

- ・データサイエンスと科学教育についての動向や課題に関する総説
- ・データサイエンスと科学教育に関する理論的研究
- ・データサイエンスと科学教育に関する実践的研究
- ・データサイエンスと科学教育に関する国際比較研究・調査研究
- ・データサイエンスと科学教育に関する評価研究
- ・データサイエンスと科学教育に関する教員養成研究・教師教育研究
- ・データサイエンスを応用した研究方法や研究手法を採用した科学教育研究
- ・その他，データサイエンスと科学教育に関する研究

#### 特集編集部会の構成メンバー

部会長：川上 貴（宇都宮大学）

副部会長：畠山 久（東京工業大学）

特集編集部会委員：石橋一昂（岡山大学），雲財 寛（東海大学），大寫竜午（千葉大学），大谷洋貴（大妻女子大学），小口祐一（茨城大学），古賀竣也（崇城大学），塩澤友樹（椋山女学園大学），瀬戸崎典夫（長崎大学），辻 宏子（明治学院大学），永井正洋（東京都立大学），中村大輝（宮崎大学），林 敏浩（香川大学），松波紀幸（帝京大学），谷田親彦（広島大学），渡辺雄貴（東京理科大学）  
ほか

事前申込締切：2024年9月30日

\*査読プロセスを円滑に進めるため，特集は投稿前に「事前申込」を設けております。投稿を予定している方には誠にお手数ですが，著者名・所属，タイトル，論文種別，E-mail アドレス，電話番号，連絡先住所を [jsse-hen\[atmark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[atmark]nacos.com) までお送りください。事前申込せずに投稿する場合は，投稿締め切りまでにご投稿ください。

投稿受付開始：2024年5月1日

投稿締め切り：2024年10月31日

\*特集に投稿する場合は，投稿システムの「手順6: 設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください。

\*査読は，10月1日以降，順次開始します。

発刊予定：2025年6月（49巻2号）

#### 投稿論文の取り扱い

本特集の刊行までに採択されない投稿論文については，一般論文としての査読を継続いたします。ただし，その際には，査読システムの特性上，改めて一般論文として新規投稿していただきます。

以上

## 特集投稿募集のお知らせ

編集委員会では、若手活性化委員会と連携し、下記の主旨で「科学教育研究」第49巻第4号での特集を企画します。研究論文、総説・展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

なお、投稿規程により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要があります。また、この特集には投稿条件が設定されています。その点ご注意ください。

編集委員長 青山和裕  
特集編集部部长 山本輝太郎  
若手活性化委員会委員長 岡本紗知

記

特集名：次世代を担う若手研究者の科学教育研究

将来の科学教育研究を牽引する人材を本学会から輩出することを大きな目的として、また若手研究者のキャリアパス形成を支援することを目的として、若手会員を対象とした特集（以下、若手特集と称する）によって若手会員の研究活動を支援する取り組みが2017年に始まった。2024年で8回目となる。これまで多くの若手会員に研究会発表と論文投稿を促し、『科学教育研究』第42巻以降の各巻第4号に、多くの若手会員の研究成果を掲載してきた。2024年も若手特集によって若手会員の研究活動のさらなる支援と、研究成果の公表機会の提供を行う。

これまでの若手特集では、若手活性化委員会の下部組織としてサブミッション・アドバイザリーボードを設置し、若手特集への投稿希望者に対する助言を組織的に実施してきた。今回の若手特集では、論文投稿支援の実施体制をリニューアルする計画である。具体的には、従来のサブミッション・アドバイザリーボードを発展的に解消し、若手活性化委員会による論文投稿支援方策の新たな試みを実施する予定である。具体的には、①論文執筆に関する動画集の公開、②論文執筆のための対面サポート、という点の取り組みに新たに着手する。ただし、これらの支援を受けることは、あくまで任意であり、今回の若手特集の投稿条件ではない。若手活性化委員会による論文投稿支援の詳細については、若手活性化委員会からの各種案内をご参照いただきたい。

なお、若手特集編集部会メンバーは過去の若手活性化委員会構成員を中心に構成し、若手活性化委員会による論文投稿支援者と若手特集における査読者の重複を避けるという、これまでの方針を継承することで、若手会員の研究活動支援及び本学会の学術的発展のための特集とすることに加えて、若手活性化委員会の活動理念を共有した過去の若手活性化委員会構成員および若手会員のキャリアパスの形成にもつなげることを今回の若手特集においても目指す。

また、若手特集への投稿条件については、若手会員への支援を積極的に提供するために、今回の若手特集においても、これまでの投稿条件を継承する。したがって、若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定：2024年12月21日（土）、大阪教育大学、対面開催（一部オンライン））での研究発表が今回の若手特集の投稿条件となっている。研究会での研究発表だけでなく、筆頭著者が「若手」であることも投稿条件である。ただし若手活性化委員会の内規におけるベストプレゼンテーション賞の受賞者条件の

改訂に伴い、今回の若手特集から、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかの修了または退学後 8 年未満の会員にも新たに投稿資格を付与する。詳細は、下記の投稿条件を確認されたい。若手特集は、重要性がより増してきている学位取得に向けた若手会員の足掛かりとなり、そして科学教育という学術領域の一層の充実と発展を促す場となることを目指している。多くの若手会員からの投稿を期待している。

特集編集部会の構成メンバー

部長：山本輝太郎（金沢星稜大学）

副部長：服部裕一郎（岡山大学）、荒谷航平（北海道教育大学）

特集編集部会委員：（調整中）

投稿条件

以下の（1）～（3）の 3 点の条件すべてを満たした論文投稿を受け付けます。これらの条件を満たしていないと判断された論文につきましては、一般論文としての査読対象とさせていただきます。あらかじめご承知おきください。

（1）以下の（a）、（b）、（c）のいずれかを満たす学会員が、投稿論文の筆頭著者となっていること。

（a）投稿締切日時時点で、39 歳以下である。

（b）投稿締切日時時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかに在学している。

（c）投稿締切日時時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後 8 年未満（※1）であるか、博士の学位取得後 8 年未満（※2）である。

（※1）投稿締切日までに修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと修了または退学後 8 年未満となることを含む。

（※2）投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となることを含む。

（2）若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定：2024 年 12 月 21 日（土）、大阪教育大学、対面開催（一部オンライン））で、筆頭著者として研究発表を行っていること。

（3）上記（2）の研究発表内容に基づいた論文であること。

事前申込締切：2025 年 2 月末日

限られたスケジュールの範囲で査読プロセスを円滑かつ確実に進めるため、事前申込を必須とします。投稿を予定している方は大変お手数ですが、メールタイトルを「特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込」とし、以下の事前申込内容を [jsse-hen\[atmark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[atmark]nacos.com) までお送りください。

---（事前申込内容ここから）

特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込

- ・著者名・所属：
- ・仮タイトル：
- ・論文種別：
- ・E-mail アドレス：
- ・電話番号：
- ・連絡先住所：

- ・投稿条件 (1) について：

※満たしている項目の [ ] 内に●を記入してください。

[ ] (a) 投稿締切日時時点で、39 歳以下である。

[ ] (b) 投稿締切日時時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかに在学している。

[ ] (c) 投稿締切日時時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後 8 年未満 (※1) であるか、博士の学位取得後 8 年未満 (※2) である。

(※1) 投稿締切日までに修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと修了または退学後 8 年未満となることを含む。

(※2) 投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となることを含む。

--- (事前申込内容ここまで)

投稿受付開始：2025 年 1 月 1 日

投稿締切：2025 年 3 月 31 日

\*特集に投稿する場合は、投稿システムの「手順 5：設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください。

\*投稿論文には、日本科学教育学会研究会研究報告に加筆した旨の記載をお願いします。(執筆要領 4.(2) 参照)

\*査読は、投稿締め切り後に開始します。

発刊予定：2025 年 12 月

投稿論文の取り扱い

本特集の刊行までに採択されない投稿論文については、一般論文としての査読を継続いたします。

以上

1. 新規投稿論文

(2024.6.1～2024.8.31) : 19 編

【内訳】

和文 19 編

英文 0 編

(2024.9.1～2024.9.30) : 2 編

【内訳】

和文 2 編

英文 0 編

2. 査読中論文

(2024.8.31 現在) : 31 編

【内訳】

著者に差し戻し中 (受付前) : 0 編

担当編集委員選出中 : 1 編

査読者選出中 : 0 編

査読者諾否待 : 0 編

査読中 (1 回目) : 6 編

担当編集委員による第 1 審総合判定中 : 1 編

改訂稿待ち : 7 編

査読中 (2 回目) : 13 編

担当編集委員による第 2 審総合判定中 : 1 編

編集委員長による最終判定中 : 2 編

(2024.9.30 現在) : 40 編

【内訳】

著者に差し戻し中 (受付前) : 0 編

担当編集委員選出中 : 1 編

査読者選出中 : 0 編

査読者諾否待 : 1 編

査読中 (1 回目) : 19 編

担当編集委員による第 1 審総合判定中 : 3 編

改訂稿待ち : 11 編

査読中 (2 回目) : 2 編

担当編集委員による第 2 審総合判定中 : 3 編

編集委員長による最終判定中 : 0 編

### 3. 掲載決定論文

(2024.6.1～2024.8.31 現在) : 14 編

#### 【内訳】

研究論文 : 12 編

総説・展望 : 0 編

資料 : 2 編

プラザ : 0 編

#### 【合計】

48-3 号 : 6 編 (通算 10 編)

48-4 号 : 8 編 (通算 9 編)

(2024.9.1～2024.9.30 現在) : 5 編

#### 【内訳】

研究論文 : 3 編

総説・展望 : 0 編

資料 : 2 編

プラザ : 0 編

#### 【合計】

48-4 号 : 5 編 (通算 14 編)

4. 投稿状況及び掲載決定状況の推移 (2021.9.1~2024.9.31 現在)

(2024年9月30日 現在)

	新規投稿論文数 (編)		審査中 (編)		掲載決定論文数 (掲載号)		掲載不可論文数 (見直し取り下げを含む)	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	取り下げ
2021年 9月	3	0	22	0	0 (45-3) 3 (45-4)	0 (45-3) 0 (45-4)	3	0
2021年 10月	6	0	18	0	1 (45-4) 2 (46-1)	0 (45-4) 0 (46-1)	6	1
2021年 11月	13	0	29	0	0 (45-4) 0 (46-1)	0 (45-4) 0 (46-1)	2	0
2021年 12月	6	0	30	0	2 (46-1) 0 (46-2)	0 (46-1) 0 (46-2)	3	0
2022年 1月	6	0	24	0	1 (46-1) 2 (46-2)	0 (46-1) 0 (46-2)	9	0
2022年 2月	5	0	24	0	2 (46-2) 0 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	3	0
2022年 3月	17	0	29	0	5 (46-2) 1 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	5	1
2022年 4月	15	0	38	0	0 (46-2) 0 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	5	1
2022年 5月	7	0	40	0	0 (46-2) 1 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	4	0
2022年 6月	8	0	44	0	1 (46-3) 0 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	3	0
2022年 7月	4	0	31	0	1 (46-3) 7 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	9	0
2022年 8月	11	0	28	0	0 (46-3) 4 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	8	1
2022年 9月	4	0	21	0	0 (46-3) 9 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	2	0
2022年 10月	11	0	25	0	0 (46-4) 0 (47-1)	0 (46-4) 0 (47-1)	6	1
2022年 11月	12	0	31	0	0 (46-4) 1 (47-1)	0 (46-4) 0 (47-1)	4	1
2022年 12月	6	0	34	0	1 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	2	0
2023年 1月	7	0	30	0	2 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	9	0
2023年 2月	8	0	31	0	0 (47-1) 4 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	3	0
2023年 3月	17	0	35	0	5 (47-2) 0 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	8	0
2023年 4月	19	0	48	0	1 (47-2) 0 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	4	1
2023年 5月	11	0	43	0	0 (47-2) 3 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	11	2
2023年 6月	6	0	41	0	3 (47-3) 1 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	4	0
2023年 7月	5	1	39	1	1 (47-3) 2 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	3	1
2023年 8月	8	0	36	0	0 (47-3) 5 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	7	0
2023年 9月	4	1	29	1	6 (47-4) 0 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	5	0
2023年 10月	18	0	36	1	5 (47-4) 1 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	5	0
2023年 11月	20	0	53	1	0 (47-4) 0 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	1	2
2023年 12月	4	0	52	1	1 (48-1) 0 (48-2)	0 (48-1) 0 (48-2)	4	0
2024年 1月	7	0	51	1	0 (48-1) 0 (48-2)	0 (48-1) 0 (48-2)	6	2
2024年 2月	13	0	53	0	2 (48-1) 2 (48-2)	0 (48-1) 1 (48-2)	7	0
2024年 3月	21	0	55	0	5 (48-2) 0 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	5	4
2024年 4月	26	0	56	0	6 (48-2) 3 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	15	1
2024年 5月	10	0	43	0	1 (48-3) 1 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	17	1
2024年 6月	9	0	42	0	0 (48-2) 5 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	5	0
2024年 7月	7	0	41	0	1 (48-3) 1 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	5	1
2024年 8月	3	0	31	0	0 (48-3) 7 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	6	0
2024年 9月	2	0	21	0	0 (48-3) 5 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	7	0

### 広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 269 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事： 大貫麻美（白百合女子大） 向 平和（愛媛大）

委 員： 山口悦司（神戸大） 三宅志穂（神戸女学院大） 舟生日出男（創価大）  
中村大輝（宮崎大） 日下智志（鳴門教育大） 増田有紀（埼玉大）  
袴田綾斗（高知大）

幹 事： 谷塚光典（信州大） 榎本哲士（信州大） 村田翔吾（日本体育大）  
後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷（株） 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 一般社団法人日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2419484 一般社団法人日本科学教育学会